

癌化学療法名 胃癌 2週毎CLDN18.2陽性治癒切除不能ゾルベツキシマブ(ピロイ)+mFOLFOX6療法

実施部署	外来・入院	1クール日数	14day	未承認
番号	抗がん剤名・略称	1日投与量	投与方法	投与日
1	ゾルベツキシマブ(ピロイ)	初回800mg/m <sup>2</sup>	中心静注	day1
		2回目以降 400mg/m <sup>2</sup>	中心静注	day1
<p>・ピロイは、タイトジャンクションを構成する膜貫通タンパク質 (CLDN18.2) を標的とするキメラIgG1モノクローナル抗体で、CLDN18.2陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌に効能効果を取得</p> <p>・第Ⅲ相試験でmFOLFOX6併用のSPOTLIGHT試験及びCAPOX併用のGLOW試験でもPFS及びOSで有用な結果が示された。今後胃癌ガイドライン改訂で提言されると思われる</p> <p>・ピロイは注射用水5mLで溶解後生食に希釈。          ・ピロイ希釈後、室温で約6時間以内で投与終了すること。冷所で24時間以内。</p> <p>・パロノセトロン＋アロカリス＋デキサート＋ポララミン注10mg＋オランザピン前日よりday4まで内服を推奨、2コース目以降は軽減にてオランザピン不要。但しオランザピンは糖尿病禁忌にてアタラックス-Pで代用</p> <p>・悪心嘔吐発現時は中断、投与速度に相関するため、回復後50mL/hから再開          ・ピロイのインフューションリアクション発現時はGrade1の場合は投与速度50%減速する。Grade2以上は中断          ・オキサリプラチンでの過敏反応やCIPNIに注意</p>				

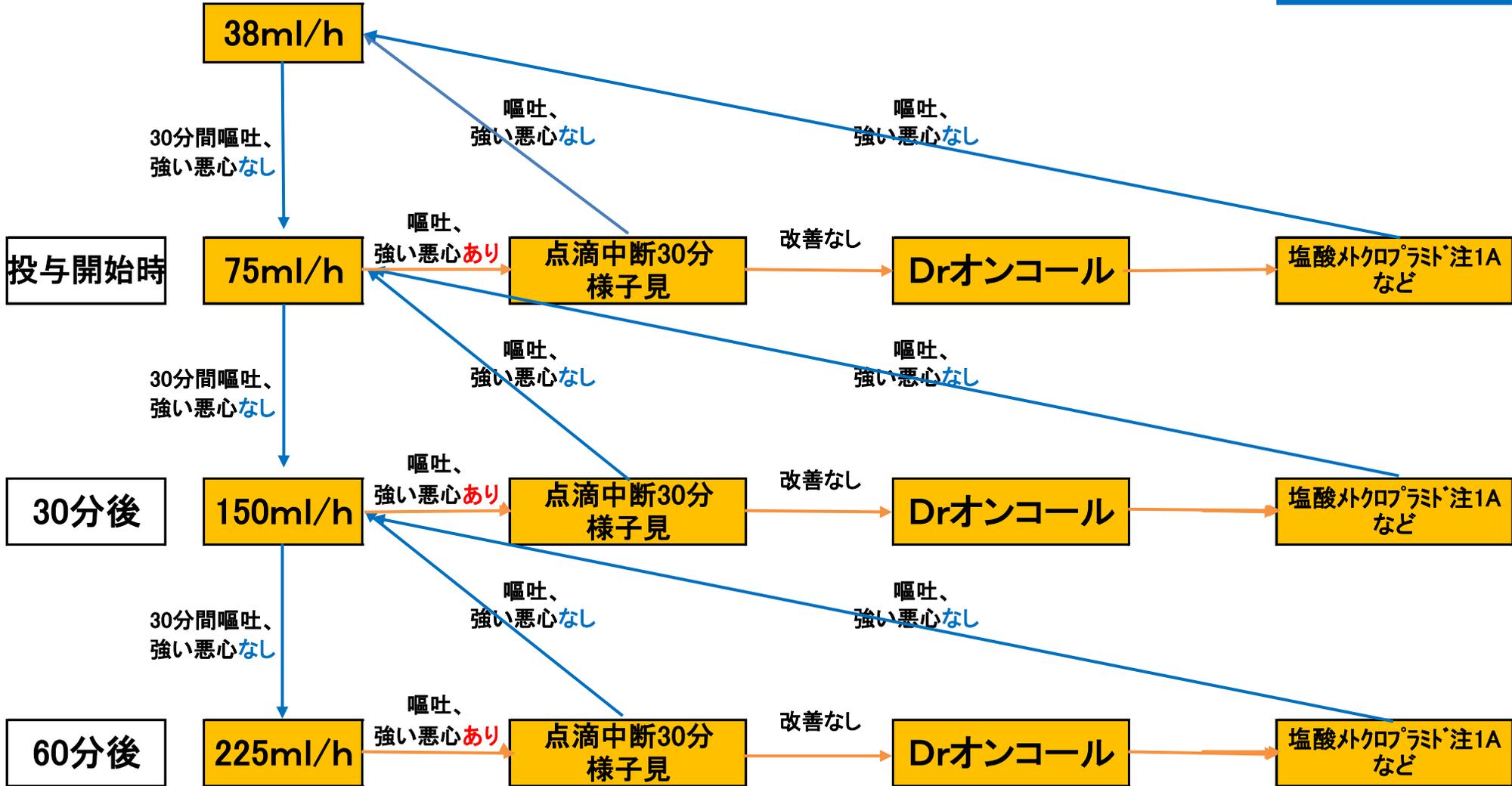
投与日	薬剤名	ルート	時間
day1	① 生食 シリンジ	中心静脈	30分
	② パロノセトロン点滴静注0.75mg/50mL＋アロカリス点滴静注＋デキサート注9.9mg＋ポララミン注10mg＋ファモチジン20mg20mL注射液	中心静脈	
	③ ピロイ点滴静注用(1V注射用水5mLで溶解20mg/mL)＋生食(希釈量表参照)	中心静脈	
	④ オキサリプラチン点滴静注液85mg/m <sup>2</sup> ＋5%ブドウ糖250mL(オキサリとレボホリは同時投与)	中心静脈	
	④ レボホリナートカルシウム注射用200mg/m <sup>2</sup> ＋5%ブドウ糖250mL(オキサリとレボホリは同時投与)	中心静脈	
	⑤ フルオロウラシル点滴静注400mg/m <sup>2</sup> ＋5%ブドウ糖100mL	中心静脈	
day1	⑥ フルオロウラシル点滴静注2400mg/m <sup>2</sup> ＋5%ブドウ糖で携帯ポンプ全量100mL	中心静脈	46時間持続静注
day3	① 生食 シリンジ	フラッシュ	
	① ヘパリン シリンジ	フラッシュ	



# ビロイ悪心嘔吐対応マニュアル

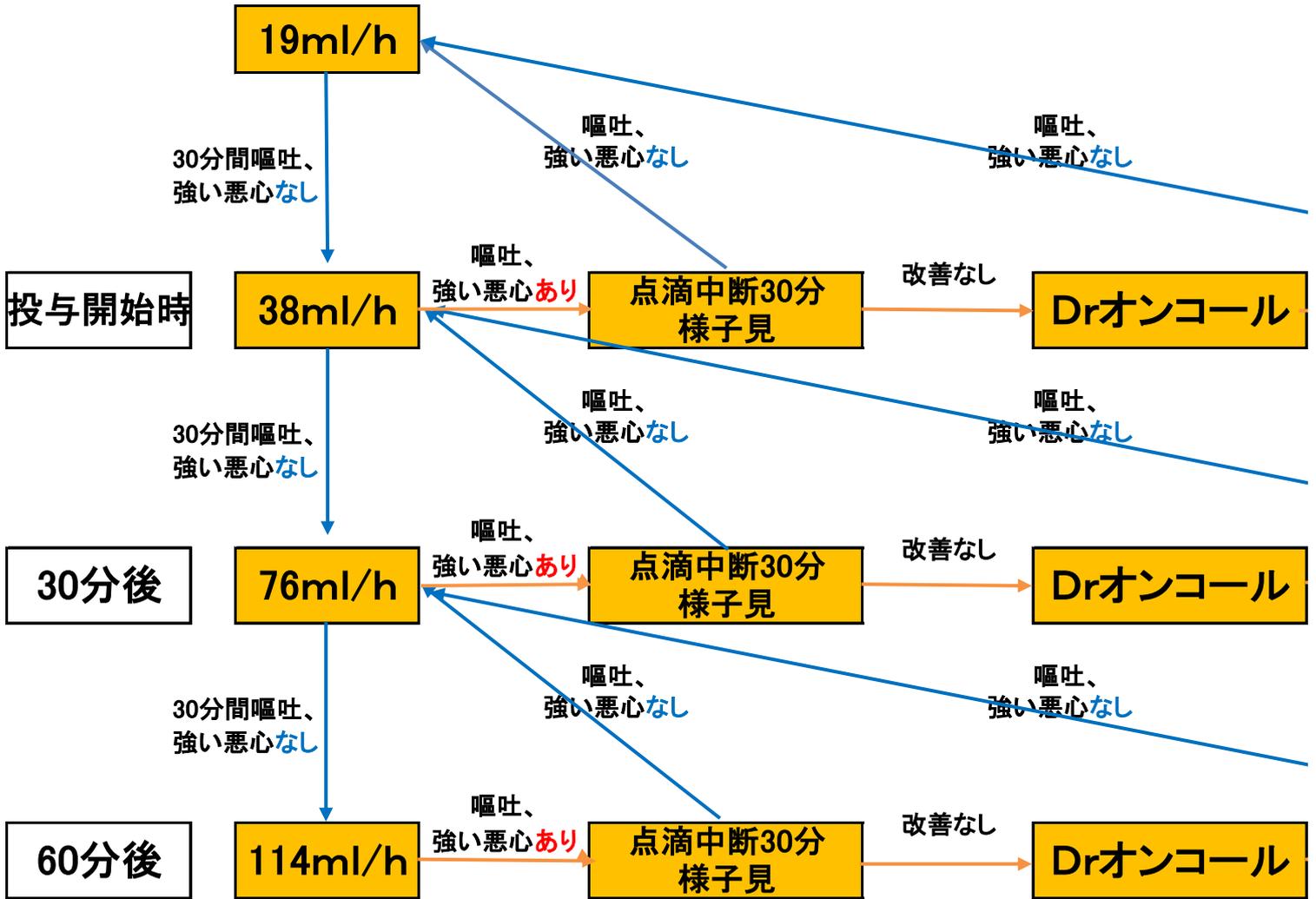
嘔吐ありの定義: 嘔吐1回以上  
強い悪心ありの定義: 我慢できないような強いむかつき

初回  
80mg/m<sup>2</sup>  
濃度2.0mg/ml

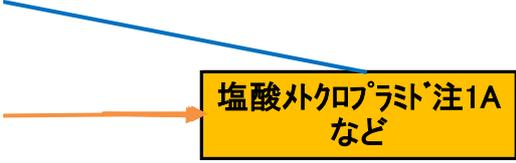


# ビロイ悪心嘔吐対応マニュアル

嘔吐ありの定義:嘔吐1回以上  
強い悪心ありの定義:我慢できないような強いむかつき



2回目以降  
400mg/m<sup>2</sup>(2週間間隔)  
濃度2.0mg/ml



塩酸メクロプラミド注1A  
など



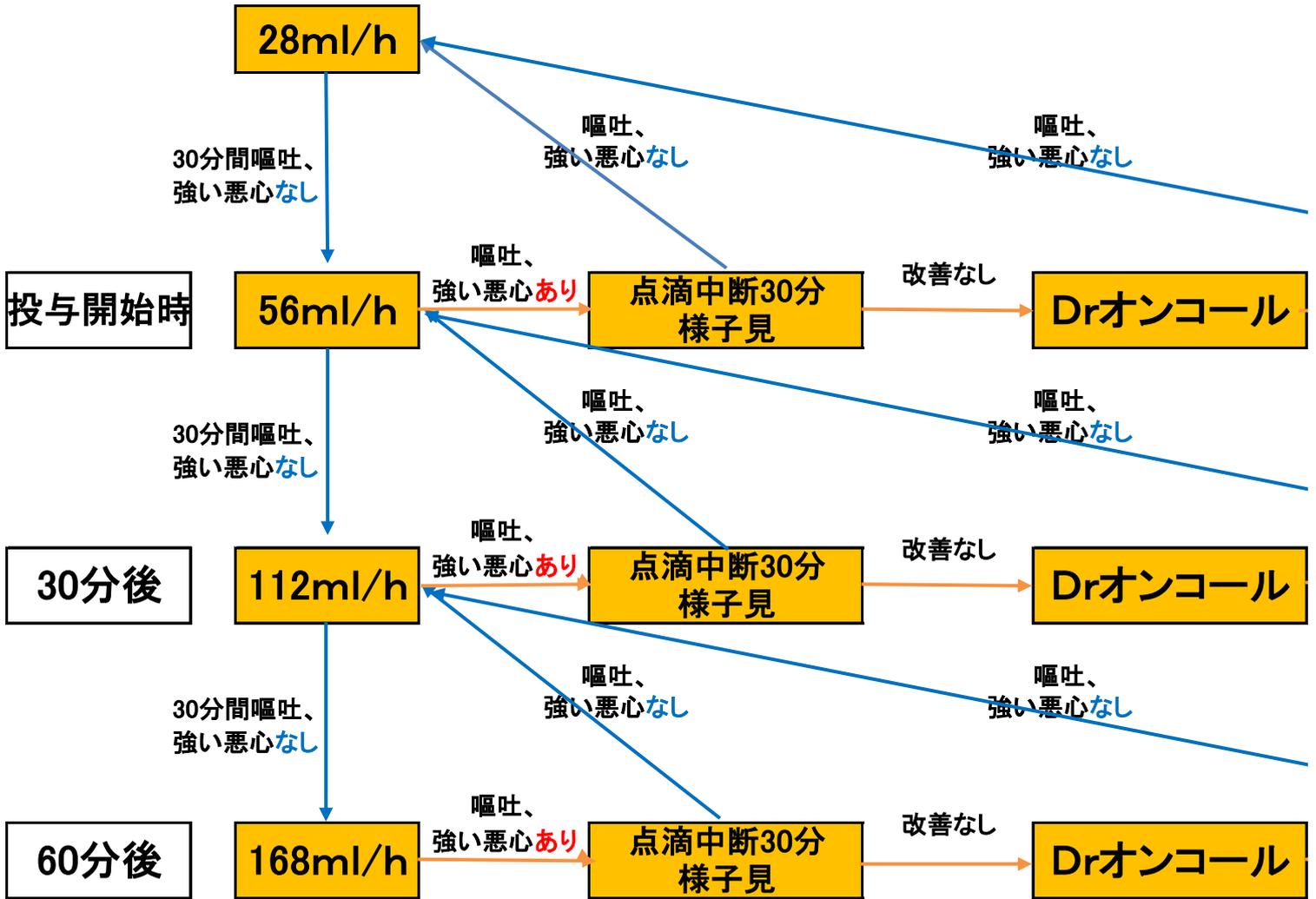
塩酸メクロプラミド注1A  
など



塩酸メクロプラミド注1A  
など

# ビロイ悪心嘔吐対応マニュアル

嘔吐ありの定義:嘔吐1回以上  
強い悪心ありの定義:我慢できないような強いむかつき



2回目以降  
600mg/m<sup>2</sup>(3週間間隔)  
濃度2.0mg/ml

塩酸オクロプラミド注1A  
など

塩酸オクロプラミド注1A  
など

塩酸オクロプラミド注1A  
など